



# 交流する

多くの国の青少年へ参加を呼びかけ、世界的な国際青少年音楽フェスティバルを開催したいという機運も高まっています。

芸術祭では、多くの出会いが生まれ、また、様々なかたちで、新しい文化の交流が始まりました。



大きなはずみがついたようです。参加したママさん一人は、「初めて県立劇場で唄いました。他グループの人とも知り合いになりましたし、来年からも定期的に開催してもらいたいですね。」と感慨深げに語ってくれました。

また、海外からも多くの青少年が出演しました。アメリカからは、モンタナ州のヘレナ少年合唱団、ミシガン州のヘムロック・ハイスクールバンド、中国からは、ヴァイオリン奏者の張楽氏など国際色豊かな顔ぶれとなりました。

これを契機に、来年以降は、アメリカ、カナダ、韓国、シンガポール、西ドイツなど



(写真提供 県立劇場・石丸捷一氏)



十月二十四日、県立劇場コンサートホールで行われた「女声コーラスフェスティバル」では、県内二十五の女声コーラスグループが参加、八百人の大合唱となりました。

県内には、約六十にもものぼるお母さんコーラスのグループがあり、非常に熱心な活動を続けています。しかし、各グループ間相互の交流がなく、また、全部をまとめる組織もないため、常々全部のコーラスが一堂に会し、合同の発表会を開催する機会を求める声が出ていました。

今回のフェスティバルでは、国際的な活動を行っている作曲家湯山昭氏と、県内音楽界の草分け的存在である新圭子さんを講師に迎えて講評を受けました。さらに県内だけでなく、全国的なレベルを有する宮崎はまゆうコーラス（宮崎市）、女声合唱団「道」（大分市）などを招待し、交流を深めるなど、県内の今後のコーラス活動に

また、十月十九日に行われたオーケストラの夕べ、日本の現代音楽としては、三善晃氏作曲の「響紋」で、熊本少年少女合唱団と熊本サンライズ少年少女合唱団のメンバーが、大阪フィルハーモニー交響楽団と共に演奏しました。現代音楽は、奏者にとっても難しい曲が多く、合唱団の子供たちも、手塚華紀氏の指揮棒を真剣なまなざしで見つめ、見事な合唱を聞かせてくれました。彼らにとって、一流のオーケストラと一緒に唄い、しかも現代音楽に触れることは初めての経験。この貴重な体験は、彼らにとっておそらく忘れることのできない思い出となり、また明日への励みにもなったことでしょう。

# 参加する



▲ママさんコーラスの合同打ち合わせ

